

「公共施設のあり方検討委員会」答申後の取組状況等について

群馬県立北毛青少年自然の家

1 建設目的

青少年の心身ともに健全な育成に資するため、集団宿泊訓練、野外活動、団体活動、青少年教育指導者の研修、その他青少年の健全育成に関する業務を行うことを目的とする。

2 沿革

昭和43年4月 北毛青年の家設置、開所 同年6月27日 大原教育キャンプ場管理
 平成11年2月 キャンプ場管理棟落成
 平成11年4月 (財)群馬県青少年会館へ管理委託
 平成18年4月 地域機関化
 平成21年7月 新体育館完成
 平成22年4月 「北毛青少年自然の家」に名称変更
 平成22年5月 A・B棟内外装改修完了
 平成25年7月 除染工事完了

3 建設概要

敷地面積 149,803㎡ (高山村から無償借受 S42.4.1~75年間)
 延床面積 3,060㎡ (A棟1,003㎡、B棟802㎡、体育館745㎡、その他510㎡)
 建築費 41,253,554円

4 組織体制 (平成25年度 26.1.1現在)

- ・総人数9人 (正規職員6人、嘱託1人、臨時2人)
- ・所長
 - 管理係 2人、臨時1人 (増減なし)
 - 指導係 3人、嘱託1人、臨時1人 (増減なし)
- ・現在の運営方法 直営

5 経費及び利用者数

(単位：千円)

区 分	H22決算	H23決算	H24決算	H25予算
歳 入 (①)	1,571	2,347	3,077	1,829
使用料	879	1,582	2,253	1,103
雑 入	534	607	666	568
その他収入	158	158	158	158
歳 出 (②)	67,767	69,346	71,851	76,156
常勤職員	52,688	54,117	53,230	56,234
非常勤職員	3,403	3,374	3,461	3,486
管理・事業費	11,676	11,855	15,160	16,436
歳入・歳出の差額(①-②)	-66,196	-66,999	-68,774	-74,327
歳入・歳出の主な増減理由	平成24年管理・事業費は、寝具類更新のため増加 平成25年管理・事業費は、キャンプサイトトイレ洋式 化工事のため増加			
備 考	平成25年度は予算額を計上			

	H22	H23	H24	H25
利用者数(延べ)	23,615人	23,763人	16,946人	25,026人
幼稚園、保育園等	1,085人	1,326人	458人	833人
小学校	11,742人	11,603人	5,498人	7,499人
中学校	1,439人	1,125人	2,727人	1,766人
高校	1,678人	802人	494人	2,156人
大学	276人	665人	1,476人	1,313人
その他の学校 (特殊学校等)	0人	0人	0人	0人
その他青少年団体	4,423人	5,720人	2,559人	5,417人
その他 (企業、主催等)	2,972人	2,522人	3,734人	6,042人

【利用者数の推移】

	H 2 2	H 2 3	H 2 4	H 2 5
団体数	3 5 4	3 3 8	2 6 0	3 6 5
実人数(人)	14,321人	14,041人	9,784人	13,509人
延人数(人)	23,615人	23,763人	16,946人	25,026人

6 使用料

(1) 使用料・宿泊料

(26. 3. 31 現在)

区 分		昼間使用料	夜間使用料
第1研修室	甲 類	300円	400円
	乙 類	600円	800円
第2研修室	甲 類	500円	600円
	乙 類	1,000円	1,200円
体育館	甲 類	500円	600円
	乙 類	1,000円	1,200円
和 室	甲 類	一人一泊につき300円	
	乙 類	一人一泊につき600円	
キャンプ場	甲 類	一人一泊につき100円	
	乙 類	一人一泊につき200円	
テント	甲 類	一張り一泊につき200円	
	乙 類	一張り一泊につき400円	

- ※ 県内、保育所、幼稚園、小学校、中学校、高校、中等教育学校、特別支援学校が教育活動として使用する場合は使用料全額免除
- ※ 県内在住し、又は県内の学校に通学する高校生以下が使用する場合は、和室又はキャンプ場の使用料全額免除
- ※ 障害者手帳を持つ方及びその介護者1名が使用する場合は、和室又はキャンプ場の使用料全額免除

(2) 食事代

	食事代 (3食)
未就学児	1,740円
小学生	1,840円
中学生以上	1,970円

7 群馬県公共施設のあり方検討委員会の検討結果を受けた改善策について

平成21年度「公共施設のあり方検討委員会」最終報告によると、当施設は本県における野外体験活動や集団宿泊活動の主要施設並びに教育的効果の高い施設として継続すべき施設とされている。ただし、利用状況が一定の時期に偏らざるを得ないことから、年間を通じての稼働率を高める方策について検討すべきとされている。

その課題について、当施設は下記の5項目について検討及び改善を図り稼働率向上に取り組んだ。

(1) 検討課題

- ① 施設を有効活用するための閑散期（4月、9月、12～3月）における利用促進の検討
- ② 使用料の設定について、使用時期や使用目的による差別化の検討
- ③ 学習効果を高めるための、近隣県有施設との連携による学校利用プログラムの開発
- ④ 主催事業や各種体験プログラム充実に向けたボランティアとの協働、地域の団体等との連携
- ⑤ 施設・設備にかかる計画的な改修

(2) 目標期間 平成21年度～平成25年度(5年間)

(3) 具体的な取組

- ① 施設を有効活用するための閑散期（4月、9月、12～3月）における利用促進の検討
 - ・企業研修の積極的な受け入れ…新人研修等を行う県内外の企業の利用促進を行った。年間予約状況を提示しながら利用可能日を相談したり、人数の変動や使用施設・道具の要望などにできるだけ応えるようにし、リピーターとなることを目指してきた。
 - ・出前指導による広報活動…当所には餅つきや焼きまんじゅう、ダッチオーブンを初めとする野外調理道具や各種クラフトの道具・材料が整っている。学童クラブ等へ焼きまんじゅう作りやクラフト指導に出かけ、主催事業や施設利用の案内をした。
- ② 使用料の設定について、使用時期や使用目的による差別化の検討
 - ・青年の家と少年自然の家の料金体系を一本化
 - ・免除区分の見直し
 - 学校における教育活動で施設を使用する場合は全額免除
 - 団体指導者等の宿泊料及び施設使用料は徴収
 - ・冬期(11月～3月)の宿泊料に200円を加算

③学習効果を高めるための、近隣県有施設との連携による学校利用プログラムの開発

- ・ぐんま天文台との連携…近くに位置する「ぐんま天文台」と密接な連携をとり、学校及び青少年団体の教育的ニーズに応じている。時間や人数の関係で天文台に行けない場合は、天文台職員を派遣してもらい当所の機材を利用した天体講座を開催している。主催事業「星空のタベ」は人気のあるプログラムとなっている。



- ・フラワーパークとの連携…主催事業でフラワーパーク職員の訪問指導を受けながらプログラムの開発に取り組んだ。植物観察の仕方や植物を使ったクラフトの指導を受け、当所での学習プログラムに取り入れた。(樹木や草花の解説方法、シュロの葉を使ったバッタづくり)



④ 主催事業や各種体験プログラム充実に向けたボランティアとの協働、地域の団体等との連携

- ・北毛青少年自然の家友の会などとの協働…当所のボランティア団体や県内VYS、大学サークル等との連携を密にし協力を得て事業の充実に努めた。同時にそれぞれの団体の活動プログラム立案や指導方法についてアドバイスをするとともに、本所の利用促進も図った。
- ・国立赤城青少年交流の家との連携…専門性の高い指導者を有する交流の家職員との連携を密に、指導力の向上に努めた。さらには、施設管理や安全対策・入所事務等の助言を得て、指導の充実に努めた。



⑤ 施設・設備にかかる計画的な改修

改修、更新を次のとおり実施した。特にキャンプ場各サイトのトイレ洋式化（洗浄機能付き）は好評で、利用の増加に繋がっている。

- ・業者による改修、更新 ※機械設備(ボイラー等)の改修・修繕、合併浄化槽等の工事は除く
 - 布団、毛布等寝具類一式の更新（23年度～24年度）
 - B棟第2研修室 黒板をホワイトボードに更新（24年度）
 - B棟第2研修室 カーテンの更新（24年度）
 - キャンプ場A、B、C各サイトのトイレ洋式化（洗浄機能付き）（24年度）
- ・職員による改修、更新等
 - キャンプ場内の木橋の改修9ヶ所（25年度）
 - 施設入り口門柱の更新（25年度）
 - キャンプ場内高木の枯れ枝伐採（落下事故の防止策）（24年度～25年度）
 - 倉庫、テント類の整理整頓（貸出品の搬出・収納の効率化）（25年度）

⑥ 施設名称の一本化についての検討

「北毛青年の家」から「北毛青少年自然の家」へ、平成22年4月1日に名称変更

(4) 閑散期における利用実績の推移（平成21年度～25年度）

閑散期	21年度	22年度	23年度	24年度※②	25年度	H18～H20年度平均
4月	1,231	1,025	570	944	1,634	1,426
9月	※① 1,755	1,814	2,551	1,311	1,457	1,259
12月	220	206	374	278	535	359
1月	192	89	210	323	474	92
2月	250	202	434	529	※③ 266	239
3月	325	51	570	1,085	1,390	574
閑散期計	3,973	3,387	4,709	4,470	5,756	3,949
年間合計	18,777	23,615	23,763	16,946	25,026	21,962

※ ①塗りつぶしは過去3年間(H18年度～20年度)の平均を上回った閑散期の月等

②24年度は放射能の影響で利用が減少した

③26年2月は記録的大雪の影響でキャンセルあり

「平成25年度主催事業」

事業名	事業概要	実施期日	募集対象・人数 【参加実績名】
1 親子体験活動推進 自然ウォッチングシリーズ1 「親子の紅葉登山」	親子で北毛地域の山を楽しみながら登り、自然の美しさを知る。また、野鳥や植物の観察・共同作業等を通して、親子や参加者相互の親睦を図ると共に、自然保護の意識を高める。	11月9日(土) ～10日(日) 1泊2日	小学生親子 40名 【参加実績30名】
2 親子体験活動推進 自然ウォッチングシリーズ2 「親子の星空の夕べ」	親子で星空観察を通して、自然の神秘と偉大さを感じながら、科学に対する心豊かな感性を育む。	11月23日(土) ～24日(日) 1泊2日	小学生 親子60名 【参加実績50名】
3 ぐんまいきいき チャレンジ 「北毛フレンドリークラブ 2013」 	不登校や屋内に引きこもりがちな青少年に対して自然体験や生活体験を通して心の居場所づくりをする。 	1回 5月19日(日) 2回 6月23日(日) 3回 9月10日(火) ～11日(水) 4回 10月22日(火) ～24日(木) 5回 12月3日(火) ～4日(水) 6回 1月28日(火) 保護者会10月30日(水) 運営委員会 1回 4月17日(水) 2回 2月12日(水)	ちょっと学校へ行くのが苦手な青少年とその保護者 30名 【参加実績延85名】
4 ぐんまキッズ アドベンチャー 「ふれあい・感動・夢冒険隊」 	4泊5日の共同宿泊体験で、環境学習、冒険活動等の様々な自然体験や生活体験を実践することにより、心豊かな子どもの育成を図る。 	スタッフ研修 ①6/29～6/30 ②7/6～7/7 事前学習会 7月7日(日) 本学習 7月31日(水)～ 8月4日(日)(4泊5日)	小学4年生～中学3年生 40名 【参加実績38名】
5 北毛ふれあい塾① 「餅つき」	昔ながらの杵と臼を使った餅つきを体験しながら草餅を作る体験をする。	12月14日(土) 1日	小学生以上 30名 【参加実績27名】
6 北毛ふれあい塾② 「ユニホック」	スウェーデン生まれのスポーツ『ユニホック』(室内ホッケー)を体験し楽しむ。	1月18日(土) 1日	小学生以上 30名 【参加実績28名】
7 北毛ふれあい塾④ 「焼きまんじゅう」	上州名物の『焼きまんじゅう』づくりの体験をする。	2月1日(土) 1日	小学生以上 30名 【参加実績30名】
8 北毛ふれあい塾③ 「ピザづくり」	ダッチオープンを利用し、野外でピザづくりの体験をする。	2月22日(土) 1日	小学生以上 30名 【記録的大雪：中止】
9 北毛ふれあい塾⑤ 「陶芸」	粘土から茶碗又はお皿を作る体験をする。	3月1日(土) 1日	小学生以上 30名 【参加実績30名】
10 青少年ボランティア体験 「夏休み高校生 施設ボランティア」	施設整備や利用団体の支援等とおして、ボランティアの精神を身に付け、今後の生活に活かす。	7月21日(日) ～8月25日(日)	学校推薦高校生30名 【参加実績77名】
11 入所学校説明会	入所希望学校を対象に、施設やフィールド、プログラムの理解を図るとともに、プログラミングについての研修を行う。	4月18日(木)	入所予定学校の指導者 【参加実績39名】

施設の名称	群馬県立北毛青少年自然の家
-------	---------------

1 検討対象施設の状況

(1) 管理運営コスト

区 分	24年度	23年度	22年度
歳入(①)	3,077,747	2,347,821	1,571,450
使用料	2,253,000	1,582,200	879,000
雑入(光熱水費等)	665,935	606,809	533,638
自動販売機貸付け	158,812	158,812	158,812
歳出(②)	71,851,752	69,347,175	67,768,017
常勤職員	53,229,683	54,116,192	52,687,713
臨時職員	3,460,699	3,374,992	3,403,294
8 報償費	885,600	1,091,300	984,475
9 旅費	347,267	443,739	393,622
11-1 食糧費	235,735	247,265	263,150
11-2 その他需用費	9,860,786	6,922,045	6,603,404
12 役務費	678,584	608,184	562,974
13 委託料	1,723,325	2,023,123	2,241,524
14 使用料及び賃借料	76,485	33,445	130,861
15 工事請負費	840,000	0	0
18 備品購入費	480,988	441,990	431,400
19 負担金	25,000	29,700	58,000
27 公課費	7,600	15,200	7,600
歳入・歳出の差額(①-②)	-68,774,005	-66,999,354	-66,196,567
歳入・歳出の主な増減理由	平成24年度その他需用費の増加は、寝具類更新のため。		

(2) 職員(各年度4月1日現在)

	24年度	23年度	22年度
常勤職員	6	6	6
非常勤職員	3	3	4
合計	9	9	10

(3) 施設の利用状況

区 分	24年度	23年度	22年度
年間利用者総数(人)	16,946	23,763	23,615
有料利用者数(人)	5,953	6,265	3,796
無料利用者数(人)	10,993	17,498	19,819
稼働率対象施設(設備)	宿泊室、キャンプ場	宿泊室、キャンプ場	宿泊室、キャンプ場
利用者の主な増減理由	放射能の影響による		